

3 アジア社会学発展の道筋は、いかに西洋社会学と各国社会学の現状との関係を処理するかによって決められる。各国各地域の現状から出発し、他国のモデルを盲目的に模倣しないことは、これまでの経験からアジア社会学の発展にとって基本的な原則である。

4 アジア諸国と地域の社会学者の交流と協力の深化…

5 アジア社会学連絡会議の設立…

また、テーマとしては以下の6セクションに分けられ多くの発表がもたれた。

- 1) アジアの経済発展と社会変動
- 2) アジアの伝統文化と社会構造
- 3) アジアの工業化と農村労働力移動
- 4) 21世紀の社会保障
- 5) 21世紀アジアの家族と生活の質
- 6) 21世紀アジアの社会経済発展。人口および環境問題

若林敬子は第6部会で「中国の人口・環境・食糧——21世紀アジア・世界への影響」を発表した。

なお会議前には北京市の居民委員会、河北省農村の郷鎮企業、また会議後は、日本村落社会学会の会員を中心に、江蘇省太倉市の農村調査を行い、充実した成果をあげることができた。

(若林敬子記)

中国・人口と環境調査報告

アジア経済研究所では、1994～96年度発展途上国環境問題総合研究事業を行っている。その一環に、中国とタイについて、西平重貴・小島麗逸らを中心に、社会学的環境意識調査を実施してきたが、今回の調査訪中は、その中の一企画である。

中心主題は、長江（重慶～武漢）とりわけ三峡ダム建設による環境問題、水没によって生活の場を失う120万人の人口を、どこに移住させるかの問題である。

日程は、12月4日～17日の14日間、上海～重慶～三峡～武漢～北京であり、各地では、人口移動、計画生育、高齢化等々の最近の全般状況についてもフォローを行った。

中国ならではの観光地であり、国・省レベルの文化財も多いこの長江をうめることによって失うものは多い。環境や人権問題をめぐりアメリカの目は厳しく、世界に前例をみない大規模ダム建設をめぐる国際協力は今最もホットな状況下にある。國務院の移民開発局や武漢大学人口研究所が勢力的に住民移転の調査を実施中である。

その他国家統計局では95年10月1日実施された人口センサス1%サンプル調査について、一人っ子政策は安定化しつつあるが「三結合」といわれる計画出産、健康、生活向上をめざし野菜農業の栽培請負いを一人っ子家庭優先で請負わせるなどの新たな実験が始められてもいた。人口移動・高齢化はますます大きな課題と化しつつある。以下訪問交流した機関名等を記しておく。

1) 上海

- ・上海社会科学院人口与発展研究所
- ・ “ 社会学研究所
- ・復旦大学人口研究所
- ・上海市計画生育委員会
- ・上海市老齡（問題）委員会
- ・市盧湾区麗園街道

2) 重慶市

- ・重慶大学人文科学中心
- ・重慶医科大学計画生育人口学
- ・四川外語学院経済等の各人口学者
- ・重慶市計画生育委員会

- 重慶市環境科学研究所・長江三峡生態環境監測網中心
 - 建設工業集团公司
 - 市江北区大石坝街道大慶村居民委员会
- 3) 三峡下り 万県, 白帝城, 小三峡, 宜昌
- 4) 武漢
- 武漢大学人口研究所
 - 湖北省計画生育委员会
- 5) 北京
- 国家計画生育委员会
 - 国务院三峡工程建設委员会移民開発局
 - 国家統計局人口与就業統計司
 - 中国人口信息(情報)研究中心
 - 中国人口報社
 - 市和平里街道居民委员会
 - 市懷柔県安德里鎮

外国関係機関からの来訪者

(1995年10月2日~1996年1月1日)

10月30日 高嶋 W. A. Manan (Department of Community Medicine, University Sains Malaysia)

11月6日 Albert I. Hermalin (Department of Sociology, University of Michigan, USA)

12月8日 Ruth Campbell (Turner Geriatric Center, University of Michigan, USA)